

I 報告事項

1. 2019年度事業報告

(1) 全体の事業概況について

今期の事業計画は、公益目的支出計画の中間年にあたりその進捗状況を見極め、後半の計画(2020年度～2025年度)を着実に遂行できるよう事業展開を図ること、及び、収益事業の拡大と経費削減に取組み、経営の安定化にむけて財務体質の強化を図ることでした。

公益目的支出計画の収益実績は、第2・3四半期の宿泊数が前年同期と比較し大幅に増加しこともあり、計画に対して超過達成しました。一方、費用実績は、宿泊関係の事業支出が各科目とも、前期よりも少なかったため計画を下回りました。その結果、当期の経常増減額は、計画割れをしましたが、全体の公益目的支出計画には影響がないものと考えます。

事業収益計画の経常収益は、前年度実績をベースに211,257千円を計画としました。最終的に計画を40,874千円上回る252,131千円となりました。この要因は、①労福協から30,000千円の寄付金を受けたこと、②収益事業の宿泊を除き、他の5事業の収益が計画を上回ったことに起因します。また、経常費用については、事業費の共益関係費が計画よりも5,948千円減少しました。しかし、修繕費支出は、緊急の修繕箇所が発生し計画を3,469千円上回りました。最終的に管理費も含め経常費用は、計画を2,967千円下回り203,484千円となりました。この結果、当期経常増減額は4,806千円の計画に対し43,840千円上回る、48,646千円となりました。最終的に正味財産期末残高は、計画を47,443千円上回る347,882千円となりました。

会館設備面では、計画通りに「全館のLED照明化・パッケージ・エアコン設置、大ホールのリニューアル工事」を実施し、利用環境の改善を図りました。

投資計画では、パッケージ・エアコン設置費用として修繕費用積立資産取崩を70,000千円計上し、59,940千円を取崩しました。計画よりその取崩額が約10,000千円少なかったこともあり修繕費用積立資産取得支出30,000千円の計画に対し、10,000千円を減額し20,000千円の引当としました。また、労福協の30,000千円の寄付金については、次期繰越収支差額として繰越を行い、次年度予定通りの執行を行います。また、「50周年記念事業」の積立費用として、年度末に1,000千円の記念事業特定資産取得支出を計画通り行いました。

業務管理面では、セキュリティ対策や金券管理を徹底するほか、個人情報を取扱う事業所として顧客保護の観点から「個人情報保護規程」を策定いたしました。

(2) 実施(継続)事業の状況について

宿泊事業を公益目的支出計画の継続事業としており、公益性の観点から一般利用者よりも小学生、中高大生等、勤労者には低料金で宿泊施設を提供しています。

当期も、7・8月の夏休みと12月の冬休みの宿泊者数は、小・中・高生および大学生の団体が連泊し増加しました。また、個人や団体のリピーター客も確実に増加傾向にあります。

前年度との比較では、小学生162人増加し385人、中高大生等が10人増加し859人、勤労者は100人増加し1,059人になり、全体では272人増加し2,303人の延べ宿泊者数となりました。

なお、2020年2月中旬以降の新型コロナウイルス感染拡大により3月の宿泊者数は、前年同月より、201人減少し61人となり大幅な減少となりました。

事業収益は5,400千円の計画に対して6,431千円となり、計画を1,031千円上回りました。

また、事業費は18,274千円の計画に対し16,678千円になり、1,596千円計画を下回りました。この結果、当期経常増減額は△12,874千円の計画に対し△10,244千円となりました。

(3) 収益事業の状況について

① 宿泊事業

収益事業の宿泊者数は昨年度より79名減少し399名となりました。一般宿泊者の大半は、提携旅行会社の「るるぶトラベル」の顧客です。継続事業の宿泊料金が廉価のために、一般宿泊者は年々減少化傾向にあります。また、継続事業と同様に新型コロナウイルスによる感染拡大で3月以降の宿泊者は激減しました。事業収益は2,900千円の計画に対し2,218千円となり、682千円計画を下回りました。また、事業費は5,946千円の計画に対し5,317千円となり、629千円計画を下回りました。この結果、当期経常増減額は△3,046千円の計画に対し△3,098千円となり52千円計画を下回りました。

② 貸室事業

当期は、「さいたま市」の機構改革により入館している部署が大規模に移動しました。2019年4月には10課3局が入館していましたが、2020年3月時点で南部市税事務所・選挙管理委員会・人事委員会・幼児政策課・産業廃棄物対策課の5部署となりました。また、労福協関連事業の福島県・富岡町の復興支援事業も継続し、ほぼ計画通りの収益を確保しました。145,755千円の計画に対し147,304千円となり、1,519千円計画を上回りました。また、事業費は82,435千円の計画に対し78,522千円となり、△3,913千円計画を下回りました。この結果、当期経常増減額は63,319千円の計画に対し68,781千円となり、5,462千円計画を上回りました。

③ 販売事業

当期も、QUOカード・VJAギフトカード・ギフト商品は、前年度の販売・仕入実績をベースとした計画としました。企業・団体による大口購入が増加し、事業収益は25,000千円の計画に対し32,571千円となり7,571千円計画を上回りました。また、事業費は25,977千円の計画に対し、仕入れの増加により33,114千円となり、7,137千円計画を上回りました。この結果、当期経常増減額は△977千円の計画に対し△543千円となり、434千円計画を上回りました。

④ 会議室事業

当期は、前年度に引き続き、さいたま市の各部署や関連団体・労働団体・福祉事業団体の会議等の利用及び介護事業者主催の研修が数多く開催されました。しかし、2月中旬以降、新型コロナウイルス感染拡大により集会や会議が自粛され、キャンセルが相次ぎました。事業収益は18,600千円の計画に対し19,039千円となり、439千円計画を上回りました。また、事業費は32,483千円の計画に対し29,612千円となり、2,871千円計画を下回りました。この結果、当期経常増減額は△13,883千円の計画に対し△10,573千円となり、3,310千円計画を上回りました。

⑤ 駐車場事業

2020年1月から「さいたま市の南部市税事務所」の開設に伴い、西側の駐車場8台相当分のスペースに駐輪場を設置しましたが、さいたま市が駐車場契約として継続する扱いとなりました。月極契約者の5台分が時間貸しに移行しことに伴い減収を見込みましたが、13,600千円の計画に対し14,552千円となり、952千円計画を上回りました。また、事業費は11,737千円の計画に対し13,347千円となり、1,610千円計画を上回りました。この結果、当期経常増減額は1,862千円の計画に対し1,204千円となり、658千円計画を下回りました。

(4) 公益目的支出計画の実施状況について

当法人の公益目的支出計画は、前(2)に記載のとおり宿泊事業を継続事業とし、2014(平成26)年3月31日で確定した公益目的財産額128,086千円を、2026(令和8)年3月31日の12年の実施期間で零円にするよう、各事業年度の公益目的支出の額は15,623千円、実施事業収入の額は4,840千円、その差額となる公益目的収支差額は10,783千円としています。

当期の公益目的支出の額は計画を1,055千円上回り1,6678千円となりました。一方、実施事業収入の額は計画を1,593千円上回り6,433千円になりました。

この結果、当該事業年度の公益目的収支差額は64,703千円(10,783,925円×6)の計画に対し70,479千円となり、計画を5,776千円上回り差異が拡大しました。

ただし、その額は各事業年度の計画(収支差額10,783千円)の範囲で収まっていることから、実施事業の規模及び残り期間を勘案し公益目的支出計画に影響を与えることは無いものと判断します。